平成２年３月発行

国際交流

ふれあいのひろば

第５号

発行
岡山市国際交流協議会
岡山市役所秘書課内
〒700 岡山市大供1-1-1
TEL. 0862－25－4211

創立５周年にあたり

～ 交流のあゆみを振り返って ～

岡山市国際交流協議会
会長　梶谷忠二

会員の皆様には平素から，本協議会の活動に対しまして格別の御理解と御支援を賜り，心から厚くお礼申し上げます。

御案内のとおり，本協議会の歴史は30年以上前に遡り，前身の『岡山サンノゼ盟友都市協議会［昭和32年３月設立，のちに岡山国際盟友都市協議会と改称］』と『岡山市洛陽市友好都市推進協議会［昭和57年８月設立］』が発展的に改組［昭和60年４月］して，誕生したものであります。

この間，岡山市や関係団体等と一体となって，公式訪問団やサンノゼ交換学生の相互派遣，洛陽市技術研修生の受入れ，中国語研修生の派遣等の文化・経済交流を積極的に推進したほか，国際交流講演会の開催，写真展・物産展の開催，ボランティア通訳・翻訳制度の活用，ホームステイ・ホームビジット引受家庭登録制度の運用，各種啓発資料の作成・配布を通じて，会員や市民の皆様に国際感覚を身に付けていただくとともに，民間交流の支援に努める等，文化・学術・経済・行政等さまざまな分野で幅広い交流を展開して参りました。

昭和62年にはサンノゼ市縁組30周年を迎え，また，昨年にはサンホセ市との縁組20周年を祝して，それぞれ記念事業を実施し，会員の皆様には多大な御協力を賜るとともに，積極的な御参加をいただいたところでございます。

こうして振り返りますと，国際化が急速に進展する中，国際交流の担い手としての本協議会の重責を痛感せずにはおられません。

今後は，岡山市の姉妹・友好都市はもとより，広く海外との友好親善を着実に促進するため，バラエティに富んだユニークな交流事業を力強く展開して参りたいと考えておりますので，皆様の一層の御支援をいただきますよう心からお願い申し上げます。

市制100周年記念姉妹友好都市関係者勢揃い

市制100周年記念特集

～ 岡山に集う姉妹・友好都市の友人たち ～

平成元年６月，岡山市では市制施行100周年を迎えるにあたり，姉妹・友好都市の市長をはじめ，各市の代表者を招き，岡山市をはじめ国内各地を視察していただくとともに，今後の友好親善の推進をテーマに交流協議を実施する等，相互理解の進展を図りました。（５/30～６/8滞在）

市民会館で開催された『市制施行100周年記念式典』では各都市の代表者が市民に向けて，友好のスピーチを行い，姉妹・友好都市としての絆の強さを確認し合いました。

席上，サンノゼ市にある姉妹都市交流推進団体であり，本協議会との間で学生交換事業を30年余りにわたって実施してきた「パシフィックネイバーズ」が国際交流の振興に多大な功績があったとして『功労団体』の表彰を受けたことは誠に喜ばしく，心から祝福したいと思います。

それでは，姉妹・友好都市関係者との交流風景とニッポン体験について御紹介しましょう。

市制100周年を迎えて

岡山市長　松本　一

岡山市国際交流協議会会員の皆様には，平素から姉妹・友好都市との交流をはじめとする国際交流活動への参加を通じて，市政の推進に多大な御貢献をいただいており，厚くお礼申し上げます。

さて，本市は明治22年に市制を施行し，昨年６月には100周年を迎え，第２世紀へのスタートを切ったところであります。

６月１日の記念式典には姉妹・友好都市から市長をはじめ，各市を代表する方々をお迎えし，相互理解と友好親善を深めるとともに，今後の都市交流のあり方について忌憚のない意見交換をする等，極めて有意義なひとときを過ごすことができました。

本市では，国際化にも対応し得る岡山空港の拡張整備，岡山カルチャーゾーンや瀬戸大橋の海外ＰＲによる国際観光の振興，平成５年度完成予定の「チボリ公園」の整備，国際的芸術文化の殿堂となる「岡山シンフォニーホール（仮称）」の建設を進めるほか，市立幸町図書館の建て替えに伴う「西川イベント・カルチャープラザ（仮称）」内への「国際交流・友好サロン」の開設等を推進して参りたいと考えています。

さらに，県が中心となって進めている国際交流に関する総合機関『国際センター（仮称）』の建設，国際見本市や国際会議も開催できる規模と機能を備えた総合展示場「CONVEX 岡山」や情報発信拠点ともなる産業情報センタービル「TELEPORT 岡山」の整備にも協力して参る所存であります。

このように，国際都市としての基盤整備に努め，国際交流の場の確保や外国人が訪れやすく，住みやすい街づくりを積極的に推進することによって，日常の市民生活の中にも着実に迫り来る国際化の波に，的確に対応して参ることができるものと確信いたしております。

岡山市国際交流協議会会員の皆様におかれましても，今後とも引き続き，絶大なる御支援と御協力を賜りますよう，心からお願い申し上げます。

▶**岡山到着**　5月31日午後，松本市長ら市幹部が出迎える中，新幹線で来岡。"ドーブルデン(ブルガリア語)" "ニイハオ(中国語)" "ブエナスタルデス(スペイン語)" とお国言葉で挨拶。

▼**日中友好旗を前に**　5月に既に来岡した洛陽市長に代わり，中国大使館の唐家璇公使，劉洪才一等書記官が来岡。鹿子木助役と談笑。　(5/31)

◀**市長表敬訪問**　到着が遅れたサンノゼ関係者を除く3都市の代表者が，松本市長・内田副議長を表敬。今後の友好促進を確認。(5/31)

交流のあゆみ

◀**市議会を見学**　表敬訪問後，岡山市議会の本会議場を視察。議会運営の苦労話や議員出欠表示柱の説明を受ける。最後は議長席でスナップ写真も。(5/31)

▶**歓迎の夕べ**　市主催の歓迎レセプションに参加し，懇談。各市の繁栄と交流の隆盛を祈念して鏡割り。[発声は梶谷会長]　(5/31)

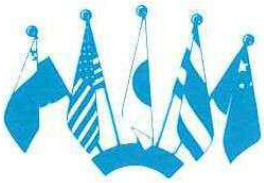
▼**苗木のプレゼント**　市制100周年に因んで市木クロガネモチやソメイヨシノの苗木100本を各都市へ贈呈。写真は目録を受け取るサンホセ市長。(5/31)

◀**拡がる友情の輪**　会場のあちこちで，談笑の輪ができ，楽しげな歓声や交流談義が始まった。国籍や言葉の壁を越えて友情の絆を結び合った。(5/31)

▶**記念植樹**　市民会館北隣の石山公園で市木クロガネモチ1本を市制100周年を記念して植樹。都市交流の輪が大きく拡がることを若い苗木に託して。(6/1)

▼**水辺のももくん**　市制100周年記念桃太郎像を見学。"今度，岡山へ来る時には可愛いパンツを持って来ましょう" と冗談も飛び出す。(6/1)

◀**記念式典に参列**　特別来賓として，100周年記念式典に華を添えた。席上，各市の代表者が市民に向けて友好のスピーチを行い，喝采を浴びる。(6/1)



▲後楽園でくつろぐ　忙しい滞在日程の中，好天にも恵まれ，後楽園をのんびりと散策。緑に包まれて，岡山の初夏を楽しんだ。（6/1）

▼企業視察　日本の先進技術を見学するため，松下電器産業ビデオ工場を訪問。流れ作業で次々と組み立てられる製造工程の能率の良さにビックリ。（6/2）

▲琴&抹茶　サツキの花咲く岡山市津島公館で，琴の調べの中，お茶のサービスを受ける。お点前の説明に首を傾げたり，納得したり。（6/1）

◀市民の祭典　市民が創り上げたミュージカル『おかやまものがたり』を鑑賞。子供たちのリズミカルなダンスや伝統芸能の披露に喝采。（6/2）

▶瀬戸内クルージング　瀬戸大橋を渡り，与島発着の咸臨丸で30分の船上見学。スケールの大きさにビックリ。"シスコの金門橋よりグレイトだ"の声も。（6/3）

▼さようなら岡山　離岡前にJR岡山駅前広場の孔雀噴水前で名残りを惜しむ。（6/4）

◀白壁の町を散歩　独特な歴史的ムードを残す倉敷美観地区を散策。大原美術館や倉敷考古館を巡り，中橋で小休止。（6/3）

◀着物に触れて　京都視察時に日本の民族衣装"きもの"を見つけて，走り寄る。触れてみて正絹の肌触りにウットリ。（6/5）

▼下町の商店街　東京浅草の仲見世では，豊富な品揃えと安さに思わず，手に取る人も。（6/7）

▶友好交流の将来は？　浅草寺でおみくじ初体験。吉凶の占いに笑顔の中にも一喜一憂。姉妹・友好交流は大吉！（6/7）

『ボランティア通訳・翻訳者実務研修会』を開催

～ 国際化の進展に備えて ～

国際交流を推進する際に大きな障害となる言葉の問題を解消するため，本協議会では「ボランティア通訳・翻訳制度」を設け，希望者に紹介しています。

現在79人のボランティア登録があり，観光案内，会議・パーティーでの通訳，資料・手紙の翻訳等さまざまな分野で活躍しています。

こうした中，本協議会では昨年12月16日，登録者を対象に通訳・翻訳の技能をより高めていただくため，観光案内のノウハウ，外国人への接し方，通訳のポイント等を学ぶ『実務研修会』を開催しました。

参加者23人は，最初に①観光ビデオ「おかやま恋うた」の鑑賞を通じて，市内観光地についての理解を深め，続いて②県観光連盟観光案内専門員の桑島一男氏から「観光地案内のポイント」について講演を聞きました。

最後は，③フリー通訳・翻訳者の小笠原ヒロ子氏を座長とする座談会「HOW TO　通訳」に臨み，熱心にメモをとったり，活発な質疑応答を行いました。

本協議会では今後もさまざまな研修会を実施したいと考えていますので，皆様の御要望をお寄せください。

── 研修会に参加して ──

ボランティア通訳　T.M. 三郎

昨年12月の研修会に於て，参加者のお一人が外国語の勉強方法について質問をされていましたので，日本語と外国語（欧米言語）の違いを少し書いてみます。御存じのように日本語は象形文字から発祥した視覚言語ですが，欧米言語は音が始めにでき，後から文字ができた聴覚言語なのです。同じ喋り言葉の裡でも英語とフランス語では幾分趣を異にします。英語が強弱，強弱，強弱弱というふうにリズムで構成されているのに対しフランス語は音程（イントネイション）（高低）で勝負する言葉なのです。一例をあげますと挨拶もフランス語では一日で三通りの音程になります。午前中はこうです。Bonjour Monsieur というふうに音程が上昇します。私は“二上り”と呼んでいます。午後になりますと，Bonjour Mademoiseller と平坦になります。これは“本調子”と命名しています。更に夜は，Bonsoir Madame と下降します。これは“三上り”です。このようにイントネイションが変化します。〈フランス語は歌うように，シャンソンは囁くように〉です。Au·revoir（仏語で「さようなら」）

（事務局）長文の原稿を寄せていただきましたが，紙面の都合で一部割愛させていただきました。

ボランティア通訳　西山富美子

その日私は遅れてしまった。というのは市役所迄のバス路線が定かではなかった。途中出会ったNさんに遅れるかもしれない由を伝えておいたのだが，受付には届いた様子はなかった。遅れて困ったなあという思いをもって研修会に臨んだ。岩崎事務局員の話しが済んで岡山の観光案内のビデオがなされていた。夢二のことが印象的だった。次に桑島一男先生の話しで，「感動を相手に伝えること。それにはまず自分が感動すること。」という貴重な御助言を戴いた。私は創作活動の中では常にこのことを念頭においていたが，それと全く同じことが通訳にあてはまることは知らなかった。新しい発見であった。未熟な自分を感じた。次に小笠原ヒロ子先生の現場からの報告であった。体験を通しての話が聞けた。黒子に徹すること。いつか翻訳事典で読んだことが出てきた。仕事の前には，テープを聞いて感覚を英語に向けて出掛ける。プロの言葉だ。ーーコーヒーブレイク。ケーキとコーヒーが出てきた。秘書課の方達が接待して下さった。いつも思うことだが，彼等のさりげない優しさはこの上もなく貴重に感じる。出来得るならば，いつまでも共に仕事がしたいものだ。そう思いながら帰途についた。

サンノゼ交換学生を囲む会にて

『大三彩展を鑑賞する会』を開催

～『友好都市・洛陽』に思いを馳せる～

岡山市では市制100周年を記念して，平成元年11月11日から12月10日までの間，市立オリエント美術館で『大三彩展』を開催しました。会場には友好都市である洛陽市の特産「唐三彩」をはじめ，中国遼寧省「遼三彩」「ペルシャ三彩」「奈良三彩」等，世界中の三彩芸術が並べられ，入場者の感嘆の声があちこちで聞かれました。

本協議会では同展のために来日中の岳金合氏［洛陽市文物工作隊研究員］と趙暁華氏［遼寧省博物館研究員］を講師に『大三彩展を鑑賞する会』を開催しました。

〈趙氏からの手紙〉

展覧会では多くの方々とお知り合いになれ，日中両国の長い文化関係と友誼の深さを痛感しました。岡山には山があり，水があり，町は美しく，人々はもっと美しく，行き届いたお世話のお陰で岡山を十分に堪能できました。

岡山市民の皆様に心から感謝申し上げます。是非，中国に遊びに来てください。

大三彩展の印象

会員　金辺　正二

（詩人）

唐三彩，いつの頃からか耳にし，そして，今迄どのように見て来たであろうか。美術館で，中国物産展で，古物店で，それは中国（満洲）育ちの私には陶器としてより，遥かなる青春への郷愁でさえあったのだ。

然し，今日初めて其の神髄に一歩近づくことが出来たような気がした。館内をうめた三彩，特色は別として，まず唐三彩そして遼三彩・ペルシャ三彩・奈良三彩。岳金合先生の説明をいただき，もっと中国語を勉強しておけばよかったと悔やむ。

大きな口を開けたラクダの迫力，今朝窯出しをしたばかりのような色と艶だ「嘶いている，瘤が左右になっているのは均衡を保つため」説明は続く。広大な土地から採れる原料と当時の化学者に感服する。

そう言えば，当時の唐の長安城は世界最大の都市であり，代表的詩人李白，杜甫へと思いは続く。2階で妻とウーロン茶を喫す。

サンノゼ・ボプテットが来岡

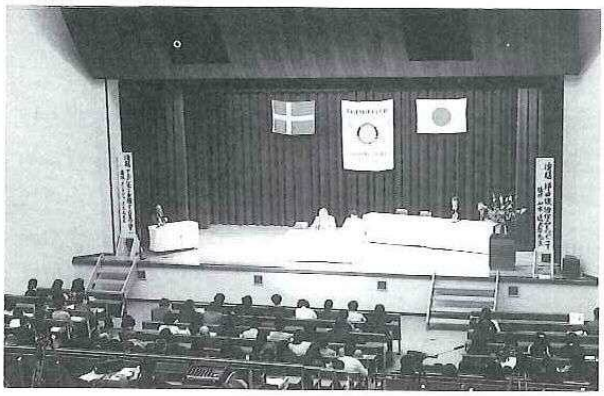
～ ジャズの名曲を披露 ～

姉妹都市サンノゼのジャズ・グループ「サンノゼ・ボプテット」が『岡山国際芸術フェスティバル'89』に参加するために来岡しました。サミー・コーエン氏をリーダーとする一行は「サンノゼ市芸術週間」行事で，1万人の聴衆を前に演奏した経験もあるベテラン揃い。

同フェスティバル実行委員会には本協議会も参画し，昨年9月27日夜，岡山衛生会館で開かれたコンサートへの参加を会員にも呼び掛けました。会場は多くの会員やジャズファンであふれ，「レコールダ・ミー」「チェルシー・ブリッジ」等，ジャズの本場アメリカの素晴らしい生演奏に何度となく「アンコール！」の声も。

第3回国際交流講演会を開催

～デンマーク・アンデルセン研究所長の童話論～



本協議会では岡山南ロータリークラブ，岡山市教育委員会との共催で，平成元年10月17日，『第３回国際交流講演会』を開催しました。

講師はデンマーク王国アンデルセン研究所長のヨハン・ドウ・ミリウス教授と吉備路文学館長の山本遺太郎氏の二人で，童話の世界をテーマに「日本・デンマーク児童文学交流セミナー」として実施しました。

会場のノートルダム清心女子大学カリタスホールには400人を超える会員・市民・学生等が集まりました。

童話のこころ

会員・ボランティア通訳
松藤　亨
（大学教授）

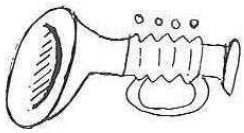
山本遺太郎氏により，坪田譲治が３月３日桃の節句に生まれ７月７日七夕に没している事が象徴的に示すように，彼が如何に不安苦境の中にも絶えず純真なる童心に帰り，あの美しい心に残る児童文学を書き，“浄土”の宗教心を培い泰然自若の晩年を送ったかを知り，Ｓｒ.津田の明快な通訳によるミリウス氏の講演で，アンデルセンが如何に多岐不運の生涯の中にも，その苦悩犠牲にうち克ち，神を仰ぎ，霊的宗教的より高き次元へ昇化せんとするromantic symbolismにより，大人にも深い示唆感動を与える不滅の童話を書き綴っていったかを示され，古今東西を問わず，深く求める魂には変わらない共通共感の自然人生の秘儀が示され，それを美しい文章に書き上げていく文学者の努力の跡を偲んだ。そういう精神的共通意識こそデンマークと日本の，更にglobalな文化交流の基盤であるのではなかろうか。チボリ公園を岡山に建設せんとする時に，時宜を得た交流セミナーで教えられる処が多かった。

ジャズの楽しさ

会員・ボランティア通訳
間野　貴子
（会社員）

サンノゼ・ボプテットの公演に参加して一番印象に残ったのは，岡山のページ・ワン・ジャズオーケストラと共演している時の彼らの楽しそうな姿であった。両グループ個々の演奏後，共演の運びとなった訳であるが，日米のトランペッター同志，トロンボーン奏者同志等々が隣り合い，交互に演じ，賞賛を贈り合う。その姿を見て音楽に国境が無いことを私は痛感し，会場全体も彼らの世界に引き込まれて自然に手拍子を打っていたのである。

コンサート終了後，ライブハウス「ロフト」でジャズパーティーが開かれ，変わった形のベースを持つボプテットの奏者に弾き方を教えてもらったりもした。ここでもボプテットとページ・ワンの共演が１時間程続き，ジャズに詳しくない私も含め100人程のお客は，たっぷりと演奏を楽しむことができた。誰でもが参加できるこういう国際交流の場は非常に貴重であると感じ，是非またフェスティバルが開催されることを一市民として希望する。



〈おことわり〉 光元様と藤本様の写真が入れ替わっています。お詫びのうえ訂正いたします。

サンノゼでの1年

昭和63年度
派遣交換学生
光元　求佳

1988年の8月半ばに私は生まれて初めて日本を離れた。サンフランシスコの空港に降り立ったとき，全く見知らぬ土地にポンと投げだされた思いで，不安で一杯であった。無限の青空と照りつける太陽，さまざまな人種とその交わりあう体臭を感じたとき，渡米前の数カ月間の心の準備が，全く役立っていないことを痛感した。

パシフィックネイバーズの皆さんと

交換学生としてサンノゼでいかに生活をしていくかということを頭では理解していても，肌で感じる初めてのアメリカは本当にその想像を超えるものであった。「きっとこの一年は，精一杯努力してもこの国をほんの少し理解できるだけだろう。」というのが，その時の私の気持ちだった。

サンノゼでは，州立大に通い，ロトンド家というすばらしいホストファミリーに一年間お世話になりながら，ありとあらゆることを体験した。もちろん交換学生として大学のクラブへ参加し，学校訪問等もした。しかし私にとって最も強烈で貴重だったと思われるのは，ホストファミリーと過ごした日常だった。夕食ごとに彼らと語らい，休日に一緒にパーティーに出かけ，長い休みには家族で湖のそばの家で過ごした。時には口論をし，互いの違いを実感したこともあった。しかし，こういう生活を通じて，私は彼らの人生に対する考えかたを知ることができた。積極的に，オープンに他人を受け入れ，前向きに人生を楽しむ方法を教えてもらったと考えている。

サンノゼで様々な出会いがあり，そこから多くを吸収させてもらった。そこで関った人々にとっても自分が少しでも意味のある存在であったことを願ってやまない。

MY MEMORY SAN JOSE

大切な宝物

昭和63年度
派遣交換学生
藤本　裕美

太陽が照りつけるサンフランシスコ空港への到着から始まった私のサンノゼでの生活は，たくさんの人と新しいこととの出会いの連続でした。アメリカを目で見て，肌で感じた11ヵ月，それは同時に，自分が生まれて育った日本という国を見つめ直した11ヵ月でもありました。

大学の授業で地理を履修する機会を得ました。毎回，世界の国々の中から一国を取り上げ，その国の政治，経済，文化について学ぶという形態のものでしたが，日本の時は特別に二回にわけて授業がありました。アメリカ人の学生たちからは様々な質問が飛び出し，教室内でただ一人の日本人留学生だった私は，いくつかコメントを求められたりしました。TVニュースや新聞で，経済大国日本のことが度々報じられているにもかかわらず，日本の社会や文化のことは，案外知られていないものだなと，その時感じました。

授業以外の場でも，日本について尋ねられることは度々あり，「相撲の力士はどうして土俵に塩をまくんだ。もったいない」というような質問があったと思えば，大皇制の現代社会における意義を尋ねられたりして，時にはうまく説明しきれないこともありました。日本人でありながら，日本についてよくわかっていないものだなと反省させられ，この機会に日本についてもう少し勉強してみようという気持ちになりました。

サンノゼで過ごした一日一日が，私の大切な宝物です。サンノゼでの生活を楽しく，思い出深いものにして下さった，ホストファミリー，パシィフィックネイバースの皆さん，友人たちに，心から感謝をしたいと思います。

ホストファミリーのロトンドさん御夫妻と

2番目のふるさと

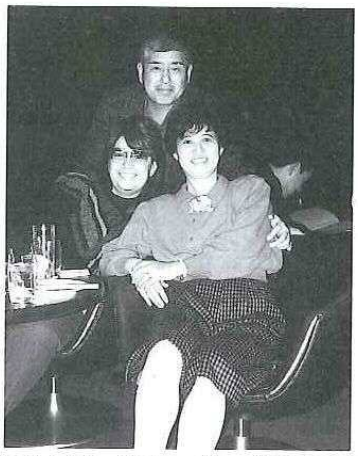
平成元年度
受入交換学生
リサ・ガント

サンノゼ州立大学で三年間日本語を勉強していましたが，最初に来た時ほとんど何も話せませんでした。日本語はとても難しい言葉なので，本当に上手になることはできないと思いますが，今はだれとでも話すことができるので，とてもうれしいです。それにくわえて，お琴と「またろ人形」と染色を習っていました。たくさんよい思い出ができました。私に教えて下さった先生たちに感謝いたします。

岡山では四軒の家にホームステイさせていただきまして，とても楽しかったです。ホストファミリーと一緒に暮らすのは，初めてでよい経験でした。ただホスト・ファミリーが変わる日にはいつもたいへん悲しくて，車の中で泣いてしまいました。

サンノゼの丘は夏には茶色になってしまうので，岡山に来た時は，緑がとても印象的でした。秋になると木々が紅葉して，すすきがきれいです。相生橋から見た風景はとくに美しいです。一方には，旭川，岡山城，後楽園，遠くの山々が見え，他方には，近代建築が見えます。古さと新しさ，自然と文明のコントラストがみごとに融和して，真の日本を象徴していると思っています。

今はもう帰る時になってしまったので，悲しいです。皆様は，本当にやさしかったです。ひざを脱臼した時，あまり歩けませんでしたけれども，皆様のおかげで，困ることはほとんどありませんでした。たくさんの友達ができて，一緒に買物，カラオケなどに行ったことがおもしろかったです。今岡山は私の二番目のふるさとです。いつか，かえってきたいと思っています。本当にお世話になりました。


ホストマザー＆ファーザー（田中さん）

MY MEMORY OKAYAMA

岡山へ帰りたい

平成元年度
受入交換学生
ミンディ・マーカム

自作のまたろう人形と

岡山市民の皆様には色々お世話になりました。三ヵ月は本当に短かい時間ですけれども，日本での経験はとても良かったと思います。岡山へ来る前には，日本の文明や文化をよく知りませんでした。岡山ではたくさんの面白い事を習いました。今，日本の習慣をなつかしく思い出しています。例えば，折り紙やぼんの祭りや美しい花火と着物を想像しています。岡山で伝統的な物を作って，クリスマスの時に人形とか染色作品を家族と友達にあげました。そしてクリスマスカードなどを日本のホストファミリーと友達にもらいました。心から有り難うございました。

サンノゼへ帰ってから，大学で引き続いて英語と日本語を勉強しています。六月に卒業するつもりですから，今,日本での仕事口を探しています。長い間日本に住んだら，私の日本語は上手になると思います。将来は日本の小説と特に日本の現代的な詩を読みたいと思います。そして，できれば将来いくつかの詩を英語に訳したいと思います。

岡山で沢山の新しい友達と知り合いました。市役所の方などはとても親切で，ホストファミリーは本当の家族のようでした。機会があれば，必ず岡山へ帰りたいと思います。どうも有り難うございました。

ミンディさんの協力により，市制100周年記念市民愛唱歌「未来レール」の英語版ができました。歌詞カードを御希望の方は差し上げますので，事務局へどうぞ!!

サンホセ姉妹都市縁組20周年

『中米コスタリカ・サンホセフェア』

～“中米のスイス”平和都市サンホセの横顔を紹介～

本協議会では岡山市との共催で，コスタリカ共和国の首都サンホセ市との姉妹都市縁組20周年を記念して，昨年6月2日から7日の間，天満屋岡山店6階で『中米コスタリカ・サンホセフェア』を開催しました。

同フェアは在日コスタリカ大使館や岡山サンホセ交流協会〔会長：谷義仁氏〕の御協力を得て，企画・運営されたもので，フェア会場には両市市長の挨拶，サンホセの都市概要や姉妹都市交流の経過を紹介する写真パネル，サンホセの児童画，コスタリカの特産品等が展示され，多数の会員や市民で賑わいました。

ラテン音楽やコスタリカの民族音楽が流れる会場では，コスタリカ・コーヒーの試飲や木工細工・革製品の販売に人気が集まり，また，会期中には，在日コスタリカ大使館アナ・ルシア・ナサール代理大使をはじめ，来日中のサンホセ市長夫妻やサンホセ市からテレビ局取材陣も訪れ，市民とのふれあいを深めました。

◀オープニング　梶谷会長，松本市長，岡崎前市長〔名誉市民〕，ナサール代理大使，谷交流協会会長らがテープカットし，開幕。

▲大使とのふれあい　ナサール代理大使は流暢な日本語で市民と歓談。気さくな大使にコスタリカを身近に感じた市民も多かったはず。

▶コーヒーで一服　旨さでは定評のあるコスタリカ・コーヒーの無料サービスは人気の的。日本では手に入りにくいため，土産に買い求める人も。

▶わたしたちのまち　サンホセの子供たちが自国紹介のために描いた絵画を掲示。カラフルな色使いに驚いたり，国旗を描く児童の多さを意外に感じたり。

▼手にとって品定め　木工品，革製品，特産樹木“幸福の木”等が並ぶ即売コーナーはいつも人だかり。

◀サンセホの思い出　岡山サンホセ交流協会副会長の河原馨氏には語学研修でコスタリカを訪問した当時の貴重な想い出の品々を展示用に提供いただく。